



各種講座の御案内

秋からも様々な講座を開講します。
ぜひ御参加ください。

飯田アカデミア2007

飯田アカデミアは、大学の専門課程における歴史学関係の講義と同じ程度の専門知識を、市民の皆さんにわかりやすくお話しする学術講座です。

講義は土曜午後、日曜と連続4回(1回90分)で開かれます。参加資格は特にありません。飯田市民以外の方でも、もちろん御参加いただけます。

第37講座 斉明朝の歴史的意義

11月24日(土)・25日(日)

講師: 栄原永遠男さん(大阪市立大学教授)

第38講座 フランス革命に刻まれた民衆の思想

12月15日(土)・16日(日)

講師: 近江吉明さん(専修大学教授)

第39講座 世界経済の中での農業保護政策

1月19日(土)・20日(日)

講師: 森建資さん(東京大学教授)

第40講座 近代日本思想と東アジア

3月15日(土)・16日(日)

講師: 米谷匡史さん(東京外国語大学准教授)

■会場 飯田市上郷考古博物館 会議室
長野県飯田市上郷別府 2428-1

※今回から会場が変更になりました。

■時間 1日目(土) 13:30~17:00
2日目(日) 10:00~14:30

※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。

■募集人員 各講座30人

■受講料 資料代として500円(2日間分)

■申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで歴史研究所へお申し込みください。

※ファクシミリ・Eメールでお申し込みの場合は住所・氏名・電話番号を明記してください。

※2日目の昼休みには、講師を囲んで昼食交流会を行います(会費1000円)。

地域史講座

満州移民 — 飯田下伊那からのメッセージ

このたび出版された『満州移民—飯田下伊那からのメッセージ』の各章の執筆者が、4回に分けてそれぞれの章をわかりやすく解説します。

第1回 満州移民の前身

—1920、30年代の飯田下伊那

11月17日(土)

講師: 鬼塚博(研究員)

第2回 満州移民の送出国と開拓地の生活

12月8日(土)

講師: 齊藤俊江(調査研究補助員)

第3回 逃避行から引揚げへ

2008年1月12日(土)

講師: 本島和人(調査研究員・伊那西高等学校教諭)

第4回 満州移民の戦後史

2008年2月(日付けは後日お知らせします)

講師: 森武磨(顧問研究員・一橋大学教授)

■時間 各回とも14:00~16:00

■会場 歴史研究所 研究室



シンポジウム

満蒙開拓を語りつぐ意義と可能性

「満蒙開拓を語りつぐ会」主催のシンポジウムを開催します(飯田市歴史研究所共催、日本オーラル・ヒストリー学会後援)。地域における聞き書き実践活動、オーラルヒストリーやライフストーリー、満州移民や中国残留婦人、残留孤児などに関心のある皆さんの御参加をお待ちしています。

■日時 10月20日(土) 13:00~18:00

■会場 飯田市公民館4階

第1部〔13:00~15:00〕

満蒙開拓を語りつぐ実践活動を振り返って

橋部進、高島孝子、久保田諫・伊坪俊雄、齊藤俊江

第2部〔15:30~17:00〕

『下伊那のなかの満洲』の意義と課題

大串潤児、大門正克、蘭信三

第3部〔17:15~18:00〕 総合討論

ラウンドテーブル

▶セッション1 地域史の方法

報告 近世の上飯田村を知る—課題と方法—

多和田 雅保(研究員)

コメント 塚田 孝(大阪市立大学教授)

近世の上飯田村は飯田城下町を取り囲んだ大村で、都市と農村の関係や、山林を巡る諸関係が複雑に入り組んでいます。上飯田村を研究するためにいかなる課題設定をすればよいか、史料分析と聞き取りの成果をもとに報告しました。調査方法のあり方などに関して討論が行われました。

セッション2 学校と地域

報告 村の小学校と地域—明治期座光寺の事例から—

多和田 真理子(調査研究員)

コメント 塩澤 哲夫(座光寺小学校校長)

明治初期の学校設置にあたって「学校世話役」などの役割に任命された人々と、その活動内容について報告しました。現在の座光寺地区の様子も踏まえてのコメントがあり、地域の独自性をどう捉え分析していけばよいか等の点について活発な議論がなされました。



▶セッション3 生活世界と地域

報告 聞き書きにみる飯田町の暮らし

伊坪 俊雄(近現代史ゼミナール受講生)

コメント 大槻 守(兵庫県香寺町史編集室長)

町田 哲(客員研究員・鳴門教育大学准教授)

歴研近現代史ゼミナールでは、長年飯田町で暮らしてきた方々から、生活史にまつわる聞き書き調査を継続的に行ってきました。その調査成果を飯田町研究にどのように生かし得るかについて、具体的に報告しました。コメントで香寺町や和泉市の事例も交え、調査方法の特徴などに関して議論がなされました。

セッション4 地球規模化

報告 人口移動からみた飯田下伊那の150年

本島 和人(調査研究員)

コメント 南塚 信吾(法政大学教授・世界史研究所長)

かつて海外に多くの移民を送り出し、現在では外国人労働者が多く居住する飯田下伊那の地域特性について、労働市場の変容過程に注目しながら報告しました。討論ではフロアを含めて多くの意見が出され、資本による地域社会の変容の問題などについて、実りある議論がなされました。



シンポジウム 地域の歴史をひらく

シンポジウムでは東京大学名誉教授の板垣雄三さんに記念講演「組み換え自在の〈地域〉を生きる」をしていただきました。私たちが将来進むべき道を模索していくなかで、地域というものをどのように捉えればよいかについて、中国の事例やイスラム世界の事例を豊富に交えつつ、世界史的観点から具体的にお話ししていただきました。

続いて原董さんの報告「地研連の活動から—『伊那谷学』提唱と地域再発見—」では、伊那谷で活動を展開している様々な分野の地域研究団体が相互にネットワークを結んで「伊那谷学」を提唱するに至る経緯について、貴重なお話しをしていただきました。最後に田中雅孝調査研究員によるコメントがありました。

研究報告会

研究報告会では歴史研究所や美術博物館、図書館のスタッフらが日々の研究成果を市民の皆さんに披露しました。地域の方や大学院生の方からも貴重な研究成果の発表があり、有意義な議論ができました。特に阿南町立富草小学校5年生の皆さんからは、「かじかの湯」にまつわる大変優れた報告がなされ、とても印象深いものでした。



第1期計画年度の実績報告・評価を行い次期の計画を策定します

飯田市歴史研究所は、2003年12月にそれまでの市誌編さん事業を恒久的な地域史研究事業として位置づけ直し、開所しました。これまで、第1期(2003～2007年度)の中期計画に基づいて恒久的・継続的に地域の歴史や文化を調査研究し、その成果を現在及び未来の市民に還元するために取り組んできました。

第1期の最終年度にあたって、これまでの研究所の活動を総括・評価し、第2期(2008～2012年度)の中期計画を策定していきます。

1 実績報告書の作成(2007年5月～7月)

第1期5か年の計画期間の歴史研究所のあらゆる活動に関して、できるだけ正確なデータを集めて整理し、実績報告書を作成しました。その概要をホームページ等により市民の皆さんに公表していきます。

2 自己点検・内部評価の実施(2007年8月～9月)

実績報告書に基づいて、研究所自らのありのままの姿を正しく認識・評価し、自己点検します。その内容について市民の皆さんに公表して御意見をいただき、より市民の皆さんの御理解を得ていきます。

3 外部評価の実施(2007年8月～10月予定)

実績報告書および自己点検・内部評価に基づいて、外部評価委員によって活動の検証と評価を行います。市民の皆さんにその内容を公表する予定です。

4 第2期中期計画策定(2007年8月～11月予定)

自己点検・内部評価結果および外部評価結果をもとに第2期中期計画を策定し、より適切に調査研究や教育などの事業活動を進めます。

飯田歴研賞 2007

飯田歴研賞は、飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動を表彰するものです。今年は次の4作品を選び、8月25日に表彰式を行いました。

著書部門	伊藤幸子さん 『山なみを越えて』 (東銀座出版社、2006年)	東京から竜丘村に学童疎開した子供たちと家族との間で取り交わされた書簡集を翻刻し、戦時下を生きる家族、子ども、地域社会の姿を伝えた点が高く評価されました。
論文部門	坂口正彦さん 「養蚕農協の設立と解体—長野県下伊那地方を事例に—」 (『社会経済史学』72巻5号、2007年)	戦後改革期の専門農協を代表する養蚕農協を取り上げ、その設立過程や内部構造、養蚕農協を巡る諸関係を総合農協との対抗関係において解明した点が高く評価されました。
奨励賞	飯伊婦人文庫 『みんなとだから読めた!』 (飯伊婦人文庫発行、2007年)	地域において昭和30年代から現在に至るまで活動する70もの読書会の姿を明らかにし、読書会に関係した多くの人々の貴重な証言をまとめあげた業績が高く評価されました。
	柿野沢区道路委員会 『柿野沢における道普請の歩み』 (柿野沢区発行、2007年)	下久堅柿野沢区において、区の住民が戦後に用地や資金・労力を提供し、共同で「道づくり」を行ってきた様相について、自ら調べ上げた取り組みと成果が高く評価されました。

歴研ゼミだより

8月・9月の内容

参加者の皆さんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史ゼミ 近世下伊那の民衆生活史	近現代史ゼミ 地域社会史入門—飯田町の記憶を探る—	現代史ゼミ 地域社会とグローバリゼーション
■開催日 隔週火曜日 ■時間 午後7時～8時40分 ■担当 多和田雅保(研究員)	■開催日 隔週木曜日 ■時間 午後7時～8時40分 ■担当 田中雅孝(調査研究員)	■開催日 隔週水曜日 ■時間 午後7時～8時40分 ■担当 鬼塚博(研究員)
8月21日 天保12年「祭礼花火・踊り取締りの触れ」	8月9日 胡桃澤日記の検討／『忘れられた日本人』輪読	8月29日 Class Conflict and Cultural Consensus 5
9月4日 古島敏雄「信州伊那地方における地付入会について」を読む	9月13日 聞き書き対象者の検討／胡桃澤日記研究計画	9月12日 Class Conflict and Cultural Consensus 6
9月18日 天保8年「下川路村川除助成馬商市願」	9月27日 胡桃澤健氏の話聴く会	9月26日 Class Conflict and Cultural Consensus 7

※各ゼミでは随時受講生を受け入れています。ゼミの日程は4頁催事スケジュールをご覧ください。



職場体験学習

歴史研究所って何をするとところ?ずっと机に向かって本を読んでいるの?

研究の仕事といっても、なかなかイメージがつかみにくいと思います。歴史研究所では、職場体験学習の受け入れを通じて、歴史の調査研究の大切さと、研究所の意義を少しでも理解してもらいたいと考えています。

今年は、これまでに緑ヶ丘中1人、旭ヶ丘中1人及び飯田西中2人の生徒さんたちが職場体験に訪れました。史料調査の流れについて説明を受けた後、古文書や昔の新聞などを実際に手に取って目録を作成しました。他にもマイクロフィルムのプリント、寄贈された図書資料の配架などの作業に取り組みました。

歴研日誌

8月

- 7月31日 海友会聞き取り調査・近世史ゼミ
- 3日 歴研地域史講座⑤・松川町部奈一郎氏所蔵史料借用調査開始
- 6日 下伊那教育会歴史委員会が旧山本役場文書調査
- 8日 伊那西高校生徒に「満州移民」夏期講習
- 9日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査・近現代史ゼミ
- 10日・12日 須坂市小木曾文哲氏所蔵史料所在確認・概要調査
- 11日 「美博まつり」に建築史ブース設置
- 19日 羽場曙友会史料概要調査
- 21日 近世史ゼミ・『飯田市歴史研究所年報5号』刊行
- 23日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査
- 24日 研究員会議
- 24日～26日 第5回飯田市地域史研究集会
- 25日 第1回外部評価委員会
- 29日 現代史ゼミ
- 29日・30日 日本建築学会大会
- 31日～9月6日 九州歴史的建造物及び町並み調査



羽場曙友会史料曝書の様子

9月

- 4日 近世史ゼミ
- 4日～7日 飯田西中学校生徒体験学習受け入れ
- 7日 旭ヶ丘中学校生徒体験学習受け入れ
- 12日 今宮郊戸八幡宮絵馬調査・現代史ゼミ
- 13日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査・近現代史ゼミ
- 18日 第2回外部評価委員会・近世史ゼミ
- 22日 学びあい講座鼎歴史を学ぶ会
- 25日 歴史的建造物調査
- 26日 現代史ゼミ
- 27日 座光寺麻績史料館所蔵史料調査・近現代史ゼミ
- 30日 座光寺今村八東氏所蔵史料調査
- 継続調査 森本信正氏所蔵史料・市瀬繁文書・岡田昭夫氏所蔵史料・上久堅小学校移管史料

10月・11月の催事スケジュール

10月	2007	11月
月	1	木
火	2	金
水	3	土
木	4	日
金	5	月
土	6	火
日	7	水
月	8	木 近現代史ゼミ
火	9	金
水	10	土
木	11	日
金	12	月
土	13	火 近世史ゼミ
日	14	水 現代史ゼミ
月	15	木
火	16	金
水	17	土 地域史講座 満州移民①
木	18	日
金	19	月
土	20	火 満蒙開拓シンポジウム
日	21	水
月	22	木 近現代史ゼミ
火	23	金
水	24	土 アカデミア
木	25	日 アカデミア
金	26	月
土	27	火 近世史ゼミ
日	28	水 現代史ゼミ
月	29	木
火	30	金
水	31	

開所日 開所時間 午前9時～午後5時
 休所日 休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日